

zoo もりおか

2017

第25号



盛岡市動物公園

テーマ

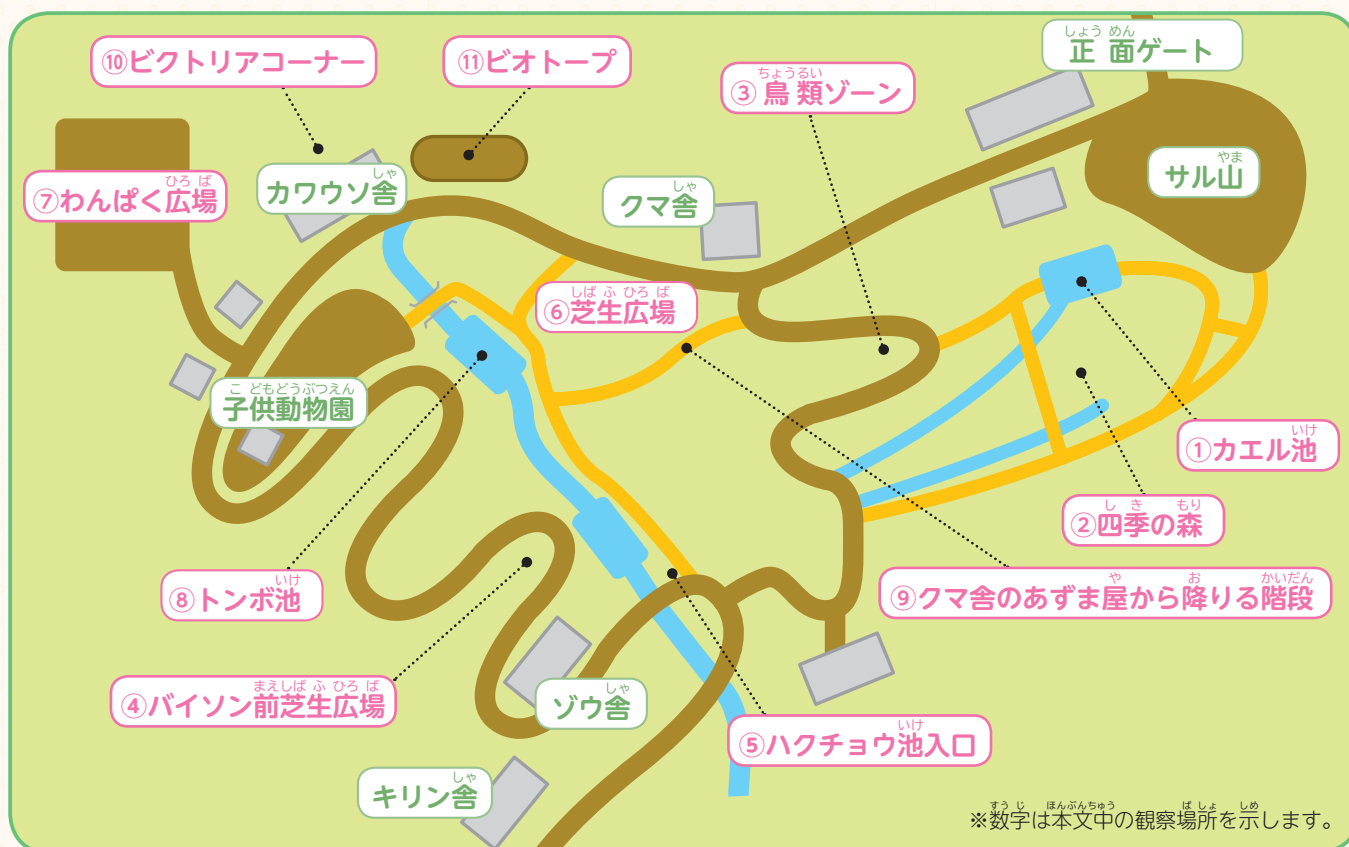
園内での自然の楽しみ方

盛岡市動物公園には林や水辺、草原など、豊かな自然があり、飼育している動物以外にも様々な生き物がすんでいます。昆虫や植物、両生類などを季節にそって観察する催物をたくさん開催していて、とても人気がありますが、来園したみなさんが自由に自然にふれて楽しい時間を過ごす助けとなるよう、今回のZOO もりおかは「園内での自然の楽しみ方」をテーマに、季節ごとの自然観察ポイントを紹介します。選りすぐりの“おすすめ”ですから、ぜひ参考にして、園内の自然をお楽しみください。

もくじ

- テーマ「園内での自然の楽しみ方」 2・3・4・5・6
- しいうらばなし 7
- 園内の自然「エナガ」 8

園内の自然観察マップ



● 表紙の写真 ●

アルパカ（偶蹄目ラクダ科）

表紙は、2016年3月に新たに仲間入りしたアルパカのメス、愛称「モコ」と、6月に生まれたその息子「モフ」です。「モフ」は飼育係が哺乳して育ったので、人に物おじせず、少しなら触っても嫌がらないので、たくさんのお客さんがそのフワフワの毛の感触に感激しています。ただいま園内散歩の練習中！ますます人気が高まりそうです。かわいい2頭にぜひ会いにいらしてください。

春

の自然の楽しみ方

春になると、暖かい日差しとともに植物が芽吹き、たくさんの生き物たちが活動を始めます。ここでは春の自然の楽しみ方を紹介します。

春の訪れとともに咲く花をいち早く見つけ、春を実感しましょう！！



写真① フクジュソウ



写真② トサミズキ



写真③ ヤマブキ

時期	種類	観察場所
3月中旬～	フクジュソウ (写真①)	子供動物園入口近く
3月下旬～	ミズバショウ	カエル池 (地図①)
	キクザキイチリンソウ	四季の森散策路 (地図②)
4月上旬～	カタクリ	鳥類ゾーン (地図③)
	ミツマタ	子供動物園入口近く
	トサミズキ (写真②)	パイソン前芝生広場 (地図④)
4月中旬～	オオヤマザクラ	園内各所
	ソメイヨシノ	パイソン前芝生広場
4月下旬～	ヤマブキ (写真③)	園内各所
	ニホンタンポポ	ハクチョウ池入口 (地図⑤)
	モミジイチゴ	四季の森散策路
5月中旬～	アキグミ	パイソン前芝生広場
	ハンカチノキ	芝生広場 (地図⑥)

春のチョウを見つかけよう！！



写真④ ウスバシロチョウ

種類	時期	観察場所	説明
キタテハ	3月中旬	四季の森散策路	成虫で冬を越すため、早い時期から日あたりの良いところで見られます。
ホシミスジ	5月上旬	四季の森散策路	縄張りを持ち、飛び立っても同じところに戻ってくる習性があります。
ウスバシロチョウ (写真④)	5月中旬	わんぱく広場 (地図⑦)	花の周りでゆっくり飛ぶので捕まえやすいです。

オスメの自然観察

特におすすめする春の自然観察は「両生類の観察」です。

カエルやサンショウウオは春になると、サル山裏の四季の森にあるカエル池 (地図①) や芝生広場のトンボ池 (地図⑧) で産卵します。卵は透明のゼリー状の袋に包まれています。卵の形で見分けてみましょう。

種類	産卵時期	卵の形の特徴	観察場所
ヤマアカガエル	3月中旬～4月下旬	ややつぶれた球状の卵かい	カエル池の浅く日当たりが良い所
シュレーゲルアオガエル	5月上旬～6月中旬	白い泡状の卵かい	トンボ池の水際の土の中や草の根元
トウホクサンショウウオ	4月上旬～5月上旬	2本1対のバナナ状	カエル池の水中に沈んでいる枯れ枝に産み付ける



写真⑤ ヤマアカガエル

ヤマアカガエル (写真⑤) の孵化は産卵から3～4週間後の4月上旬から始まります。孵化直後のオタマジャクシは全長約1cmでじっとしていますが、1つの卵かいからは1,000～2,000頭ものオタマジャクシが孵化するので、それらが寄り集まっている様子はなかなか見ごたえがあります。また、トウホクサンショウウオ (写真⑥) では卵の中で動く孵化前の幼生の姿を見ることができます。

孵化は産卵から約1ヶ月半後の5月中旬に始まり、6月上旬まで続きます。幼生は水の底でじっとしていてスマートでエラも目立ちます。その姿形の違いを見くらべてみましょう。幼生の多くは秋までに変態して上陸しますが、一部はそのまま越冬して翌年の春以降に上陸しますので、この時期には全長約6cmに大きく成長した昨年生まれの幼生も観察できます。隠れている幼生を探すのは大変なので、観察会に参加して一緒に探しましょう。



写真⑥ トウホクサンショウウオ

この時期のおすすめの催物

カエルの卵探検隊、サンショウウオの卵探検隊、幼虫を探そう、押し花図鑑、春のお花を見に行こう、花に集まる虫たち、オタマジャクシ探検隊

たくさんの草木が花を咲かせ、実をつけ始め、色々な種類の虫たちが姿を見せて、夏は自然とふれあうのが最も楽しい季節です。

夏に咲く花と集まる虫を観察しよう

7月になると芝生広場周辺（地図⑥）などでアジサイが見ごろを迎えます。アジサイの花にはヨツスジハナカミキリ（写真①）やコアオハナムグリなど、たくさんの虫が集まります。7月中旬には芝生広場のあずま屋の近くでリョウブが咲き、稲穂のように集まって咲く小さな花には、ヒョウモンチョウやハナバチがやってきます。色々な花を探し、そこで花粉や蜜を食べる虫を捕まえて、観察してみましょう。写真① アジサイとヨツスジハナカミキリ



セミの鳴く時期と時間帯

園内のいたるところで鳴くセミの声に注意を向けてみましょう。木の高い所にとまっていれば捕まえられませんが、セミは種類によって声が違い、また活動する明るさや気温が種類によって違うので、右の表を使うと、色々な種類のセミを聞き分けることができます。ニイニゼミ（写真②）は比較的園路沿いの背の低い木で鳴くことが多いので見つけやすく、捕まえて観察してみましょう。

主なセミの鳴く時期と時間帯			
種類	鳴き声	活動する時期	よく鳴く時間帯
ヒグラシ	カナカナカナ	6月中旬～9月	朝と夕方
ニイニゼミ	チ～～～	6月中旬～9月	一日中
ミンミンゼミ	ミンミンミンミン	7～9月	朝～昼
アブラゼミ	ジーギリギリ	7～9月	昼～夕方
ツクツクボウシ	オーシーツクツク	7～9月	昼～夕方



写真② ニイニゼミ

おすすめの自然観察

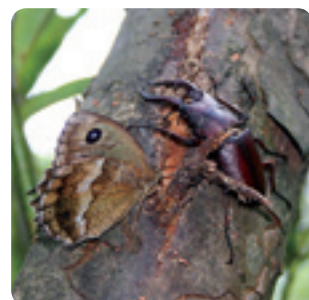
林の中で昆虫採集をしましょう。林といっても最初はどこを探していいのかわからない人も多いはず。いくつかヒントを教えましょう。

◆樹液に集まる虫を探す

まずは樹液の出ている木を探してみましょう。梅雨が明けるところから、コナラやミズナラなどのドングリのなる木の幹には、樹液がしみ出てきます。糖分をたくさん含んだ樹液は、やがて発酵し、甘酸っぱいにおいを放ちますが、これが虫たちの大好物で、たくさん集まってくるのです。

園内の樹液採集ポイント

- 四季の森のカエル池（地図①）周辺のコナラの木
- わんぱく広場（地図⑦）の林の縁にあるコナラやヤナギの木
- ツキノワグマ舎前のあずま屋から、ハクチョウ池に降りる階段周辺（地図⑨）のコナラ、ミズナラの木



写真③ ノコギリクワガタとジャノメチョウ

樹液に集まるのはノコギリクワガタ（写真③）、アオカナブン、ヨツボシケシキスイなどの甲虫や、オオムラサキ、ルリタテハ、ジャノメチョウ（写真③）などです。スズメバチなどの危険な虫もやってくるので、気を付けて観察しましょう。

この時期にはこれらの虫をワナを使っておびき寄せる「ワナで採れる虫たち」を開催します。ぜひ参加してみてください。一緒に虫を捕まえましょう。

◆木の葉に潜む虫を探す



写真④ セモンジンガサハムシ

初夏の木の葉がまだ柔らかい時期には、ハムシやゾウムシの仲間など、小さな甲虫が木の葉で活発に活動します。木の葉をよく見て、穴が開いていたり、欠けたようになっていたら、それは虫が食べた可能性が高いので、注意して見てみましょう。1cmにも満たない虫が見つかるはず。もし見つからなかったら、葉っぱの下に虫捕り網をかまえ、葉をトントンと棒で叩いてみると、隠れていた虫が網に落ちてきます。狙うのは広葉樹ですが、特に園路沿いのサクラの葉ではセモンジンガサハムシ（写真④）やバラリリツツハムシなどが見つかります。

◆水の中の生き物を探す

まずは子供動物園で専用のザルを借ります。そして向かうのは、そこから階段を降りた所の小川です。ザルを使って小川や池に溜まっている泥や砂ごとすくいましょう。水の中でザルをゆすると泥が落ち、隠れていたオニヤンマやオオルリボシヤンマ、カワトンボなどのヤゴ（幼虫）が見つかります。ヤゴ以外にも池では止水を好むコオイムシやミズカマキリ、マツモムシなどが見つかり、流れのある小川ではヘビトンボやカゲロウ、カワゲラの幼虫の他に、運が良ければサワガニが見つかることもあります。

この時期のおすすめの催物

ワナで採れる虫たち、昆虫採集大会、ヤゴを探そう、水の中の生き物を捕まえよう、こどものカエル探検隊、草木染めをしよう
7月の連休の夜に開催する「夕涼み開園」では、園内でたくさんのゲンジボタルとヘイケボタルが見られる場所に案内します。
同時に「夜の虫を探しに行こう」も開催します。

秋の自然の楽しみ方

あき秋になると、たくさんのトンボが飛び交い、バッタやコオロギたちが鳴き始めます。また、木々の葉がきれいに色づきます。ここでは秋の自然の楽しみ方を紹介します。

いろいろな種類のカエデ

写真①はイタヤカエデです。カエデの葉と言えば掌のような形を思い浮かべるとと思いますが、実は種類によって葉の形は様々で、切れ目の数の違いが種類を見分けるポイントです。



写真① イタヤカエデ

ビクトリアコーナ付近（地図⑩）ではいろいろな種類のカエデが観察できますので、違う形の葉を集めて見くらべてみましょう。

観察できるカエデの種類

イタヤカエデ

サトウカエデ



ハウチワカエデ

ミツデカエデ

秋の木の実を探そう

芝生広場周辺（地図⑥）ではニシキギ（写真②）、ウメモドキ、ガマズミなど、赤い木の实が目立ちます。また、園内にはドングリのなる木があちこちにあるので、色々な種類を集めたり、拾って動物にあげてみましょう（あげていいのはニホンザル、ツキノワグマ、イノシシです）。ドングリでコマや人形を作る工作会もありますよ。



写真② ニシキギ

アカトンボの観察

秋晴れの日にはたくさんのアカトンボが園内を飛び回っています。写真③は園内でもっとも多く見られるアキアカネです。羽が透明なこと、胸にある3本の黒い線のうち、真ん中の線が上に行くほど細く尖っていることで見分けられます。他の種類のアカトンボはこの胸の模様が違っているので、捕まえて見くらべてみましょう。



写真③ アキアカネ

オススメの自然観察

特におすすめする秋の自然観察は「秋の鳴く虫の観察」です。

バッタやコオロギ、キリギリスは夏～秋に成虫になり、秋の訪れとともに園内のあちこちで鳴き声が聞かれるようになります。特にわんぱく広場（地図⑦）でたくさんの種類が観察できます。バッタやコオロギは種類によって好む環境が違います。例えばわんぱく広場の林の縁では、草丈が長く乾いた場所を好む、ウマオイ（写真④）、ヤブキリなどのキリギリスの仲間が多く見られます。芝生では、みんなが遊び回る足元に、エンマコオロギ、シバズなどコオロギの仲間が隠れています。



写真④ ウマオイ

鳴き声がするのに、なかなか見つからないことがよくありますよね。それはバッタやコオロギの体の色が保護色になっているからです。葉の上でくらすキリギリスの仲間の体は緑色で、姿形もなんとなく葉に似ています。また、地面でくらすコオロギの仲間の体は土に似た茶色をしているので、じっとしていると見落としてしまいます。鳴き声が聞こえたら気づかれないようにそっと近づき、そこにきつといると信じて、注意深く観察しましょう。

さて、その鳴き声を、虫たちはどうやって作り出しているのでしょうか。コオロギは2枚の前翅をこすりあわせて鳴き声を出します。右前翅の裏側に細かいやすり状のギザギザが付いていて、これを左前翅の表側にある厚くなった部分とこすりあわせると音がでるのです。鳴くときは翅を立てるので、腹部の背面と翅の間に大きな空間ができ、それによって小さな音でもよく響くようになると言われています。バッタの仲間の音の出し方は全く違って、足の内側についているギザギザで翅の外側をこすって音を出しています。

この時期のおすすめの催物

木の実・落ち葉工作会、カエデ図鑑、コオロギ・バッタを捕まえて飼う、トンボの種類の見分け方

ふゆ 冬になると虫は姿を見せなくなり、植物は色々な方法で厳しい寒さを乗り切ります。動物公園は12月から3月半ばまで閉園しますが、2月の臨時開園では冬ならではの自然観察を楽しむことができます。

あしあと さが 足跡を探そう

園内には色々な野生の哺乳動物がすんでいて、雪が降るとその活動の様子が足跡として残ります。足跡のパターンから動物の種類がわかるし、追跡すると食痕やフンが見つかったり、時には何かを襲った跡に出くわすこともあります。なんだかワクワクしてきますね。

テン

しんこうほうこう
←進行方向



せなかを丸めてシャクトリムシのように跳び、前足があった所に後ろ足をつくので、2つずつセットになった足跡が残ります。

ニホンリス

しんこうほうこう
←進行方向



小さい前足を追い越したところに大きい後ろ足をつき、いつもこの4つのパターンの足跡が残るので、すぐに見分けられます。

ノウサギ

しんこうほうこう
←進行方向

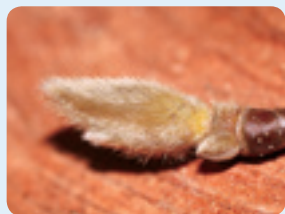


右前足の少し後ろに左前足をつき、それらを追い越して大きい後ろ足をつくので、いつも“けんけん、ぱ”の足跡です。

ふゆめ 冬芽を探そう

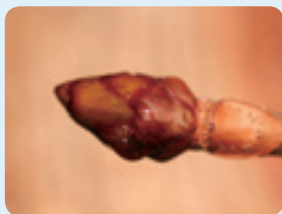
冬になって気温が下がると、樹木は乾燥した地中から水分を吸い上げにくくなるため、水分が逃げやすい葉を落として、水分が失われるのを防ぎます。春に活動を再開するために、芽吹くのを待っている冬芽には、樹木ごとに色々な特徴があり、その形から樹種を調べたり、楽しく観察ができます。

ハクモクレン



やわらかい毛で
フカフカ

トチノキ



ねんえき
粘液で
ベトベト

ハンノキ



ワックスで
テカテカ

コナラ



えださき あつ
枝先に集まって
かわさかなうろこ
皮が魚の鱗みたい

オススの自然観察

虫の冬越しの様子を探ってみましょう！虫は卵、幼虫、蛹、成虫と、種によって様々な形で冬を越します。



写真① イラガの繭

まずは林に落ちている朽ち木を拾い、手でほぐしてみましょう。クワガタムシやカミキリムシなどの幼虫や、オサムシなどの成虫、時にはスズメバチ（女王バチ）の成虫が出てくることも！（寒さであまり動かないので、あわてなくても大丈夫）なんだか宝探しみたいで楽しいですよ。白当たりの良いマツの木の皮の陰ではカメムシの成虫が越冬していたり、葉が落ちた木の枝では卵や蛹が見つかりやすくなります。ビクトリアコーナー横のビオトープ（地図①）に植えてあるカラタチやサンショウの木はアゲハチョウの幼虫の食草なので、越冬している蛹が見つかりますし、草むらにある細い枝や枯れた茎を丹念に探すとカマキリの卵が見つかることもあります。

特に見つけてみたいのはイラガ（写真①）の繭です。この繭は日本の虫の中でもっとも硬いと言われています。中の蛹はその繭で寒さがやわらげられるほか、体液に凍りにくい特徴があったり、さらに寒くなって体が凍りかけても、細胞の中味までは凍らない仕組みがあったり、3重の防寒戦略を持っています。すごいですね。

臨時開園では、ビクトリアコーナー横のビオトープでいろいろな生き物の冬越しの様子を観察する催物があります。ぜひ参加してみましょう。

しいくうらばなし

「ニホンリスの攻撃」

50頭ほどの大所帯で飼育するニホンリスの世話の毎日の日課は、頭数を数えながら元気かどうかを1頭ずつチェックすることです。たくさん設置してある巣箱の中に弱っているリスが隠れていたら困るからです。

リスの頭数を確認するにはちょっとしたコツがあって、それはケージに入ったらまずすべての巣箱のフタを閉じてしまうのです。作業の気配でリスがみんな巣箱から出てしまい、ケージの中を縦横無尽に走り始めたら、とても数えられるものではありません。途中で数えて分からなくなり、何度も「ああ、もう・・・」となります。そうしておいてからまず巣箱の外にいるリスを数え、その後ひとつずつ巣箱のフタを開けながら、そこに入っているリスの数を足し算していくのです。これなら間違いなく確認できます。

ただ困ったことに、閉めた巣箱のフタを開ける時、かなりの確率でリスが巣箱を覗き込んで私の顔面に向かって、すごい勢いで飛び出してくるのです。リスは太い木の幹もするすると登れるくらい鋭い爪を持っているので、顔に生傷が絶えませんでした。それでも毎日のことだからさすがに慣れて、今ではリスの動きを予測し、少しのリアクションをとるだけでリスを寸前でかわせるようになりました、まるでボクサーのように。

ところが、リスからは予測不能のまひとつの攻撃を受け、痛い思いをさせられています。それは“クルミ爆弾”。ケージの中で作業をしていると、天井にぶら下がったリスが、口にくわえていたクルミを突然落としてくるのです。日ごろリスに恨みを買っている覚えはないので、まさか狙って落としている訳ではないのですが、単なる偶然とは思えないくらい頻繁に当てられます。たかがクルミといっても、頭頂にピンポイントで当たると結構痛いし、突然でびっくりすることもあって、思わず「あ、痛!」と声が出てしまい、誰かに見られなかったかと、辺りを見回してしまいます。



「エミューの気づきのチカラ」

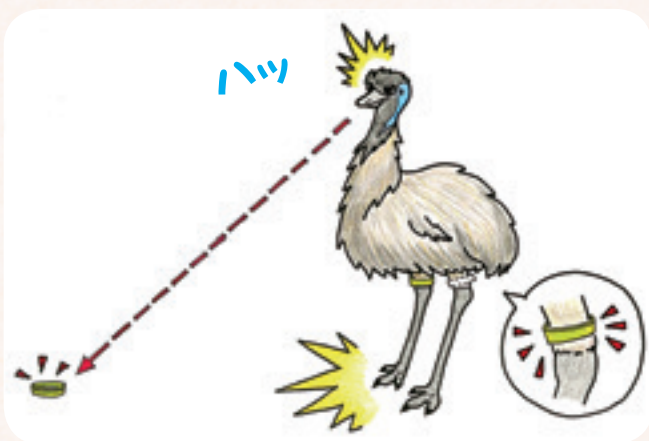
動物園の動物たちのほとんどは、日中は展示する運動場で、夜間は屋内の寝室で過ごしています。朝、運動場に出るとき、ほとんどの動物は喜んで出て行きますが、雨が降っていると外に出たがらなかったり、外に出てみてから寒いことに気づいて寝室にもどりたがるなど、ちょっと困ることもあります。

いかつい顔をした、体の大きな飛べない鳥、エミューたちは、見かけによらず穏やかな性格で、お天気の良い日はもちろん、雨が降ってようと雪が降ってようと関係なく、後ろについて歩くだけで、いつもすんなりと運動場へ出て行き、そしてすんなりと寝室に帰ってくる、とても扱いやすい良い子たちです。

ところがそんなエミューが突然ピタリと動かなくなることがあります。その原因は決まって、「そこにあるいつもと違うモノ」。それは運動場の片隅に落ちたちょっと長めの枯れ枝だったり、隣の運動場でアメリカバイソンが転がして遊んでいた丸太だったり、時には自分の足から脱落した足環(見分けるために足につける様々な色のプラスチック製のリング)だったり…。

止まってしまったエミューを歩かせようと無理矢理追ったり、力づくでどうにかしようとする、エミューはパニックを起こしてしまいます。

1羽がパニックを起こすと他の個体にも伝播して、なんだかもう大変なことになってしまい、自然に収まるのを時間をかけて待つしかなくなります。そうならないためには、エミューが突然動きを止めたなら、まず運動場をじっくり観察するのです。そうして「そこにあるいつもと違うモノ」を見つけ、それさえ取り除けば、エミューは何事もなかったようにすんなりと歩き出してくれます。「それにしても・・・よくこんなモノに気づくなあ・・・」と、エミューの後ろを歩きながらいつも感心してしまいます。





エナガ（スズメ^{もく}目エナガ^か科）

主に平地から山地の森林にすみ、亜種を含め北海道から九州まで広く分布します。体長は長い尾も含めて約14cmで、体はスズメよりずっと小柄です。目から背中にかけての太い眉のような黒い模様と、ずっと伸びた長い尾羽が特徴です。枝先などで小さな昆虫やクモを食べ、特にアブラムシを好みます。木の実も食べ、春先には樹皮から染み出る樹液を吸うこともあります。繁殖期にはつがいで縄張りを持ちますが、それ以外では群れを作る習性が強く、シジュウカラなどのカラ類やコゲラ、メジロなど、違う種の鳥と混群を作ります。動物公園では、四季の森やわんぱく広場などで見ることができます。フワフワの羽と長い尾を持ち、小柄な体で枝の間をせわしく動き回る姿が愛らしく、お気に入りの1種です。みなさんも探してみてください。きっと好きになりますよ。

ZOO もりおか 第25号 2017年
発行日／平成29年3月10日

編集・発行／（公財）盛岡市動物公園公社

〒020-0803 岩手県盛岡市新庄字下八木田60-18
TEL.019-654-8266

印刷／川口印刷工業株式会社